

令和4年度 東京都立蒲田高等学校 学校経営報告

Ⅰ 今年度の取組目標等に関する自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

- ア 学習指導においては、校内寺子屋事業及び放課後支援等を活用して、義務教育段階からの学び直しを行い、基礎的・基本的な学力を確実に定着させ、個に応じた伸長・発展を図った。
また、ICT 機器を活用し、効果的な学習を進めるとともに、オンライン及びハイブリッド型授業を組み合わせ、生徒の学びを保障した。
さらに、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業作りについて研修を行い、各授業において「ねらいや見通し」の工夫や「できるようになったこと」の確認ができるよう、振り返りを行うなどして、学習の到達度のわかる授業を実践した。
- イ 進路指導においては、3年間の体系的なキャリア教育計画に基づき、社会的・職業的自立支援教育プログラムの活用やNPO等と連携するなどして、生徒の適性や能力、特性等を早期に把握し、次の進路での定着を第一に生徒の個に応じた進路選択に努めた。
また、生徒の多様な進路を実現するため、きめ細やかな進路相談体制を構築し、ユースソーシャルワーカーを活用するなどして、生徒の希望を重視した指導を行ってきた。
- ウ 生活指導においては、段階的指導のシステムを十分に活用し、更に生徒に理解させ、社会人として身に付けさせる規律、規範の目標について取り組みを推進した。また、毎月おこなっている遅刻防止週間なども併せて指導に努めた。
登校時の指導として、生活指導部の教員による朝の登校時の声掛け体制を構築し、挨拶や身だしなみとして取り組んだ。
- エ 特別活動・部活動においては、新型コロナウイルス感染症予防の観点から活動時間の制限を行わざるを得ず、部活動が縮減した。その様な状態の中、部活動指導員を活用し、指導内容を充実させ、生徒の成長に繋げた。体育祭、文化祭に関しても制限の中、できる範囲で実施した。マラソン大会に関しても、校内で実施した。
- オ 心と体の健康づくりにおいては、生徒の特性に応じた支援を組織的に対応するため、毎週支援チーム会を開催し、内外部の連携の充実を図った。また、特別支援教育の理解を深めることを目的としたユニバーサルデザインの考えに基づく支援方法をテーマに、講師を招き校内研修を開催した。学習困難や発達障害への支援では、くすのきルーム(サポートルーム)の活用を推進し、放課後支援として外部指導員の協力を得ながら学ぶことへの興味関心を高め困難を克服する力を育んだ。
- カ 募集・広報活動においては、生徒・教職員ともに、地域活動・地域行事等へ積極的に参加し、中学校、教育相談所、適応指導教室等を訪問し、広報活動を行うとともに、授業公開、学校説明会、部活動体験を通じて「生徒の様子が見える」等の工夫を行った。また、ホームページを介して学校情報を積極的に配信し、応募倍率の向上に貢献した。

(2) 重点目標への取組と自己評価

生徒の学びを止めないために、感染症対策の一環として、時差登校やICTを活用したオンライン

授業やハイブリット型授業などを学校全体で取り組み、組織的な学校運営に努めてきた。エンカレッジスクールである本校の特色を生かした取り組みとして①1学年一部時間帯の30分授業、習熟度別授業、少人数授業等により、学力の基礎・基本を定着させる。②「分かる授業」の一層の充実を目指し、学習内容や指導法を常に改善し、生徒に学びの達成感や成就感をもたらせる。③生活指導は学校組織全体で取り組み、ルールを守る態度を育て、社会性と規範意識を身に付けさせる。④地域活動や体験学習により、関係自治体、NPO法人、市民講師との連携を深め、職業観や勤労観を育て、地域社会の一員であることの意識させる教育活動を堅持する。⑤学校教育相談体制を充実させ、生徒の特性に応じた支援を組織的に対応する。「いじめ防止対策推進法」、「自殺対策基本法」及び「自殺総合対策大綱」に基づき、いじめ根絶、自殺防止及び自傷行為防止の観点から、道徳教育を充実させ生徒の心のケアに努める。⑥校外での学習や活動に積極的に参加するなどして、生徒が地域に貢献する学校づくりを目指す。⑦学習活動や体験学習、部活動など様々な機会を通して、各種検定や資格取得を推進する。⑧ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事等の特別活動や部活動等に積極的に取り組ませ、生徒のコミュニケーション能力を意図的に向上させる。⑩心と体の健康づくりを維持・推進し、体力の向上及び健全育成を図る。⑪新型コロナウイルス感染対策を十分に行い、安心・安全な環境の確立に努めるとともに、「生徒の学びを止めない」学習指導体制を確立する。

学校評価による評価結果は次のとおりである。

ア 学習指導

- ・「授業の分かりやすさ」に対する肯定的意見

学校評価における肯定的評価平均値 92.8% (93.1%)

【生徒 86.5% (90.7%)・保護者 94.3% (91.0%)・教職員 97.5% (97.7%)】

- ・「きめ細かく手厚い学習指導」に対する肯定的意見

学校評価における肯定的評価平均値 86.7% (89.6%)

【生徒 83.6% (87.3%)・保護者 84.0% (83.8%)・教職員 92.5% (97.7%)】

- ・「授業規律と学習環境」に対する肯定的意見

学校評価における肯定的評価平均値 78.6% (87.0%)

【生徒 72.2% (76.3%)・保護者 81.1% (89.5%)・教職員 82.3% (95.3%)】

イ 進路指導

- ・「情報提供や進路ガイダンス等の充実」に対する肯定的意見

学校評価における肯定的評価平均値 87.2% (84.5%)

【生徒 83.3% (82.8%)・保護者 80.7% (82.4%)・教職員 97.5% (88.4%)】

- ・「生徒の個性・適性に応じた進路指導」に対する肯定的意見

学校評価における肯定的評価平均値 84.8% (87.8%)

【生徒 78.0% (80.1%)・保護者 78.7% (88.1%)・教職員 97.5% (95.3%)】

- ・「進路未決定率を減らす取組」に対する肯定的意見

学校評価における肯定的評価平均値 83.9% (86.5%)

【生徒 77.3% (79.5%)・保護者 77.0% (84.8%)・教職員 97.5% (95.3%)】

ウ 生活指導・特別活動・部活動

- ・「段階的な指導の取組」に対する肯定的意見

学校評価における肯定的評価平均値 78.3% (85.2%)

【生徒 71.4% (75.0%)・保護者 83.5% (88.6%)・教職員 80.0% (93.6%)】

- ・「いじめの取組」に対する肯定的意見
学校評価における肯定的評価平均値 86.8% (90.7%)
【生徒 77.2% (85.0%)・保護者 83.2% (89.5%)・教職員 100% (97.7%)】

エ 美化・健康づくり

- ・「美化・清掃等による学習環境整備」に対する肯定的意見
学校評価における肯定的評価平均値 84.2% (87.9%)
【生徒 76.8% (81.6%)・保護者 90.9% (91.4%)・教職員 85.0% (90.7%)】
- ・「面談週間の設定、1学年二人担任制、養護教諭の二人体制など、心のケア」に対する肯定的意見
学校評価における肯定的評価平均値 87.1% (85.4%)
【生徒 74.8% (81.2%)・保護者 86.8% (86.7%)・教職員 99.6% (88.4%)】

オ 入試・募集・広報活動・学校生活に対する満足感

- ・入学者選抜応募倍率(推薦)
【男女計 2.46 倍 (1.93 倍) 男子 2.67 倍 (1.96 倍)・女子 2.23 倍 (1.91 倍)】
- ・入学者選抜応募倍率(分割前期)
【男女計 1.53 倍 (1.10 倍) 男子 1.70 倍 (1.27 倍)・女子 1.34 倍 (0.93 倍)】
- ・入学者選抜応募倍率(分割後期)
【1.44 倍 (0.50 倍)】
- ・東京都中学校校長会進学対策委員会の志望倍率
【男女計 1.27 倍 (1.02 倍) 男子 1.37 倍 (1.13 倍)・女子 1.16 倍 (0.89 倍)】
- ・進路決定率
【92% (99.1%)】
※数値の()は前年度実績である。

2 翌年度以降の課題と改善策

(1) 学習指導

スマート・スクール端末導入に伴い、タブレット端末を活用した授業の実践や、ICT利活用の充実を図るとともに、段階的到達目標に基づく観点別評価を導入していくことにより、指導と評価の一体化を目指し、生徒の自発的な学びに結び付けてきた。

平成29年度から全学年全生徒が、「朝学習」(学校設定教科・科目「社会教養」)に取り組み、基本的な学習習慣を確立し、学び直しの機会による基礎学力の定着を目指して指導を続けてきた。今後は、生徒の学習状況や支援を要する生徒に応じた、個々の実情を見極め、実態に即した学力の向上を目指した研究を進めていくことが求められる。

(2) 進路指導

進路決定率は約92%であった。進路の自己実現に向けた進路選択に導く指導を早期から段階的かつ計画的に進めていく。今後の進路指導においては、早期から保護者と連携し、本人の特性に合わせた進路選択を進めていく必要がある。また、合わせて外部機関との連携を強化し、各専門家の協力も得ながら進めていくことが重要である。

(3) 生活指導・学校生活

ア 学校行事

感染症対策を講じながらであるが、徐々に学校行事を行うことができた1年であった。体育祭は3学年全員が初めての行事となったが、例年よりも予行練習や事前説明を、丁寧かつ多く行うことで、生徒達は安心して生き生きと取り組むことができた。文化祭は3年ぶりに一般公開を行い、外部の方に本校を知っていただく機会となった。また、マラソン大会も実施することができ、体育の授業で練習した成果を十分に発揮することができた。次年度以降も、生徒達が主体的に活動し、達成感を得られるように準備を進めていくことが課題となる。

イ 部活動

運動部12部、文化部8部を設置している。同好会のITサイエンスとIAMがeスポーツとアニスト部に名称が変わり、部に昇格した。部活動体験日を設けることにより、1学期の部活動加入率は高まったが、なかなか定着するには至らなかった。今後も部活動指導員や外部指導員を活用し、部活動の一層の充実につなげていく。

(4) 組織体制

年度当初に各学年、各分掌で業務年間計画を作成し、それぞれの業務の見える化を行い、業務が平準化するように努めた。次年度も、組織的に物事に取り組めるように、業務年間計画を作成し、特定の教職員に業務が偏らないようにしていく。また、次年度は、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業作りに学校全体で取り組み、教育課題に対応した校内研修などを通して、人材育成を行っていく。

なお、教員の働き方改革の視点を踏まえ、都教育委員会の指定事業や外部人材を活用するなどして、校内組織体制と業務の見直しには引き続き優先課題として取り組んでいく。